

第22回日本時間生物学会学術大会のお知らせ

第22回 日本時間生物学会学術大会は2015年11月21日から22日の2日間、東京大学本郷キャンパスで開催致します。今年度の学術大会は、「生命における時間を再定義する」とテーマを設定いたしました。皆様には改めて時間生物学の扱う時間とは何かについて思いを馳せて頂き、とりわけ若い研究者の方々には、これから取り組むべき時間にまつわる生命科学の問題を考え、「私の考える生命の時間」を表明し議論しあう場になることを期待しています。シンポジウムは座長の先生方それぞれが考える、これからの時間生物学が問うべき課題を意識した講演を企画していただきました。どのシンポジウムも、明確な問題意識を打ち出した、興味深いテーマが提示されています。

会場は、東大本郷キャンパス内の伊藤国際学術研究センターと情報学環・福武ホールを準備いたしました。どちらも充実した設備を有する会場です。両会場は距離的にも隣接しており、ポスターセッション、懇親会は全て伊藤国際学術研究センターにて行うため、参加者の皆様は移動等を気にすることなく、思う存分議論に集中していただけることと思います。

特別講演として、北澤茂先生（大阪大学大学院生命機能研究科）にご講演いただきます。さらに、岡村均先生の御尽力によって、William J Schwartz先生（University of Massachusetts Medical School）にもご講演いただけることとなりました。北澤先生は、脳における時刻情報の処理機構について、Schwartz先生はSCNにおける概日時計機構について、それぞれの分野を牽引されておられます。「生命における時間」を考える、またとない機会になるはずですよ。

最後に、学術大会初の試みとして、ポスター発表者の方々に1分程度の口頭発表（データーブリッツ）をして頂く予定です。原則として全員に、初日もしくは2日目の午後でのご発表をお願いいたしますので、どうかご予定の調整のほど、よろしく願います。詳細はホームページ上でご連絡致します。多人数が一斉に動くことになり、多少の混乱は予想されますが、それを補って余りある交流・議論のきっかけになるものと信じております。若手の皆様は、大いに自己アピールをして頂きたいと思っております。

皆様のご参加を心待ちにしております。

第22回 時間生物学会学術大会

大会長 上田泰己

（東京大学大学院医学系研究科・理化学研究所生命システム研究センター）

【大会概要】

会期：2015年11月21日（土）－22日（日）

会場：東京大学本郷キャンパス 伊藤国際学術研究センター、情報学環・福武ホール

大会ホームページ：<http://sys-pharm.m.u-tokyo.ac.jp/22jsc/>

参加登録・演題申し込み：6月上旬よりホームページより登録受付開始

【プログラム】

21日（土）8：50－18：15

シンポジウム1：生物時計活用戦略（深田吉孝・八木田和弘）

シンポジウム2：脳と時計（内山真・岡村均）

特別講演1：北澤茂先生（大阪大学大学院生命機能研究科）

特別講演2：William J Schwartz先生（University of Massachusetts Medical School）

ポスター発表者データーブリッツ

ポスター発表

総会・奨励賞授賞式・受賞講演

懇親会（19：00－21：00）

22日(日) 9:00-19:00

シンポジウム3: そもそも生命にとって時間とは (岩崎秀雄・糸和彦)

シンポジウム4: 自然条件下でわかる生物時計の新たな機能 (本間さと・吉村崇)

シンポジウム5: 時間生物学のニューフロンティアを探る (小山時隆・沼田英治)

シンポジウム6: Chrono-nutrition: マウスからヒトまで (柴田重信・三島和夫)

ポスター発表者データーブリッツ

ポスター発表

優秀ポスター賞表彰式

【関連集会】

時間生物学トレーニングコース

日時: 2015年11月20日(金) 14:00-17:00

場所: 東京大学本郷キャンパス 医学部教育研究棟(予定)

趣旨: 時間生物学が今後も発展していくためには、次世代を担う人材の育成が不可欠である。特に、時間生物学を研究対象とする若手研究者が職を得て、継続して研究を展開できることが重要である。そこで研究者として生き残る際に必要な①研究費獲得戦略、②研究計画の立て方、③ラボマネージメント、などに関するコツを、先輩方に話題提供していただき、ざっくばらんな情報交換を行うことを目的とする。

参加資格: 時間生物学会会員または入会希望者(検討中を含む)

参加費: 無料

演題・講演者:

「採択される さきがけ申請書の書き方」(遠藤求、京都大学)

「3度目の正直～失敗例から学ぶ戦略的研究費獲得法～」(榎木亮介、北海道大学)

「基礎の本懐」(近藤孝男、名古屋大学)

「研究チームの組立てについて」(岡村均、京都大学)